

令和4年度第3回千葉県地域リハビリテーション協議会開催結果概要

- 1 日時 令和5年3月24日(金) 18時00分～19時40分
- 2 会場 オンライン開催
- 3 出席者 協議会員総数16名中16名出席
荒井泰助協議会員、井上創協議会員、岩本明子協議会員、金井要協議会員、菊地尚久協議会員、小坂重樹協議会員、坂田祥子協議会員、積田裕子協議会員、外口徳章協議会員、長谷川美穂協議会員、平山登志夫協議会員、松本友寿協議会員、水町裕義協議会員、村田淳協議会員、山藤響子協議会員、和田浩明協議会員(50音順)
オブザーバー1名出席(田中康之氏:県リハビリテーション支援センター)
各地域リハビリテーション広域支援センター担当者9名出席
- 4 会議次第
 - 1) 開会
 - 2) 議事
 - (1) 協議事項
 - ① 次期「千葉県保健医療計画」の策定にかかる検討について
 - (2) 報告事項
 - ① 地域リハビリテーション広域支援センターの指定について
 - ② 各支援センターの令和4年度活動結果について
 - ③ ちば地域リハ・パートナーの指定状況等について
 - ④ 地域リハビリテーション出前講座の実施状況について
 - (3) その他
 - ① 千葉県地域リハビリテーション協議会運営要領の改正について
 - 3) 閉会
- 5 会議結果概要
 - 1) 開会
 - 2) 議事
 - (1) 協議事項
 - ① 次期「千葉県保健医療計画」の策定にかかる検討について
事務局及び田中康之オブザーバーより資料1について説明し、資料1(案)のとおり了承されました。
 - (2) 報告事項
 - ① 地域リハビリテーション広域支援センターの指定について
事務局より資料2について説明し、以下のとおり質疑がありました。

(金井協議会員)
この指定の結果通知は、いつ行われたのでしょうか。
また、他の保健所にも結果を通知したいのですが、いつの段階で情報公開してもよろしいのでしょうか。

(県)
結果通知につきましては、10月26日に通知を行っておりますので、公開していただいて差し支えありません。

② 各支援センターの令和4年度活動結果について

各支援センター担当者より資料3について説明し、以下のとおり質疑及び意見がありました。

(荒井協議会員)

今のところと関連してちょっと前に戻ってしまうのですが、公的機関からより地域リハを積極的にアナウンスできるような、例えば、こういうことができますよとか、積極的にアナウンスできるようなシステムができてくるといいのかなと。我々も公的機関に結構働きかけてはいるのですが、県からこうしてくださいみたいなものがパッケージ的にできてくると、よりアナウンス力が上がってくるのかなというふうな感じがしましたので、先ほどの田中さんの案の中にもしなければ、加えていただけるとありがたいなということが一つとですね。

あと、地域に広げていくはもちろんですが、専門職の間でも地域リハに関して疎い人も結構いますので、地域リハの知識のレベルアップというところもですね、一つ加えていただければいいのかなと。もしあったら申し訳ないのですが、そういうことを今感じました。よろしく願いいたします。

(田中オブザーバー)

荒井委員がおっしゃっていたのは、次期の保健医療計画の中の目標のところと、多分かぶっているお話かと、理解をいたしました。目標で案として挙げていた、目標の1のところと地域リハビリテーションへの理解を広めるというところで、先ほどおっしゃっていましたそのツールとかその手法については、ぜひ検討していきたいというふうに考えています。

公的なところというのは、これが多分、その下の窓口とか役割とも関係してくると思いますので、市役所とか保健所などとタイアップがとれるように、どういうふうに普及していくとか、お知らせをしていくとか、それはツールだけではなくて、手順も含めて検討していきたいと思っています。

あともう一つ、一般県民というより専門職の方がちょっとなかなか疎いというお話がありましたが、おっしゃるとおりで、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士という、いわゆるリハ専門職と言われている人達の中にも、当然職域が違う人は、そこになかなか理解がおよんでいないということもありますが、それだけではなく、やはり当然のことながらドクターであったりとか、ナースであったりとか、もっと幅広くその地域に根差したリハビリテーションというところを理解していただけるような活動はしていきたいというふうに考えています。今具体的にこうしますとはなかなか言えないのですが、検討材料の中に入っています。

(小坂協議会員)

おそらく総合事業だと思うのですが、短期集中予防サービスの関係で、各3ヶ月か6ヶ月やっていただいて、その後の処遇とか、その卒業生というのですかね。そういった方の対応とは、どのような形でやられているのかなと思ひまして、教えていただければと思います。

(香取海匠広域支援センター)

旭市で今、通所型のCと訪問型のCを今年度から始めていますが、3ヶ月、具体的には12回ですけれども、12回の関わりの後は、現状では終了1ヶ月後に追跡調査という、フォローアップという形で初回と、中間と、最後におこなった評価を今一度おこなって、状況を確認するところまではおこなっています。卒業修了者ももう何名か出ていますが、その後どういうふうに経緯に再自立に至ったとかそういった情報も、この前の市の実務者会議の方でご報告いただけていますが、そのあとの対応に関して具体的にどうしていくというのはこれから話し合いながら、協議していく部分なのかなというふうに感じています。

- ③ ちば地域リハ・パートナーの指定状況等について
事務局より資料4について説明し、以下のとおり質疑がありました。

(金井協議会員)

地域ケア会議という形で言われていますが、市町村が実施しているような地域包括ケアに参加する場面もあるのでしょうか。結構市町村は、リハビリ、また脳卒中等のリハビリの方を自宅に戻すために、地域包括ケア会議を設けていたと思うのですが、そういう場にパートナーたちが参加したというのは、この表とは別にあるのでしょうか。

(県)

含まれています。

(金井協議会員)

それだと、割と件数が少ないんですね。

(県)

そのとおりです。

(田中オブザーバー)

地域ケア会議というのは、今おっしゃっているように、各市町村が開催している、いわゆる介護保険領域で地域包括支援センター等々がやっている、地域ケア会議です。この中で、リハ職いわゆるPT、OT、STが、足りないから来てくれというふうに依頼があって行っているというケースが、ここにあがっているわけですが、実はコロナのこともあったかもしれないのですが、市町村によって呼んでいる助言者にかなり温度差がありまして、必ずしも、リハ職が全部呼ばれてとは限らないというようなところもありますし、もう一つは、すでに関係性があるパートナーとは、別の形で頼んでいるようなところもありますので、結果としてはこういうように少ない状態になっているのかなというふうに考えています。

ただ、結構要望はありまして、パートナーだけではなくて、実はこの広域支援センターの皆さんが直に出ている件数が、非常に多くなっているというのが実際かなというふうに理解しています。

(金井協議会員)

ありがとうございます。広域支援センターの場合はパートナーの方たちに自分たちの知識を普及していったって、パートナーの人たちがそれぞれ、地域包括ケア会議の中で活発に発言すると、より広がっていくのではないかなと思って発言いたしました。

(田中オブザーバー)

本来であれば、広域支援センターは、実働というよりはそういう意味での教育であったり、コーディネートであったり、組織化というところで動くのが一番かと思えますけども、なかなか実はコロナ禍でパートナーの皆様が、そういうところに外に出るというのが難しかったというのが、この1年間結構ありましたので、今のご意見を受けて、次年度以降、県の支援センターと広域支援センターとまたいろいろと検討していきたいと思えます。

④ 地域リハビリテーション出前講座の実施状況について

事務局より資料5について説明し、以下のとおり質疑及び意見がありました。

(井上協議会員)

先ほど各地域の方々から合理的配慮の研修をやっている話や、ボッチャの話もあったと思いますが、パラ・スポーツに関係するような活動もされているということは、実態としてあると思います。

今のところ車椅子体験ですとか、介護ですとか、疑似体験ですとか、そういったメニューで広がってきたんだと思うのですが、広い意味でのリハビリテーションという意味では、もうすでに色々な活動をされていると思いますので、子供さんたちがすごい興味を持ってくださるような活動が、もっと色々メニューとして先生方に選んだりできるようになると、さらに内容が深まるのかなと思いましたので、そういったわかりやすい形になってくると、またいいかなと思いました。

(県)

今いただいたご意見を参考にさせていただき、来年度以降に内容等の検討をしていきたいと思えます。

(菊地協議会員)

出前講座は、非常にいい試みだと思うのですが、コロナ禍で少ないということもあるのかもしれませんが、それにしても、かなり数が限られていると思いますので、このような試みが千葉県内の各市町村の小学校の子供たちに広く広まるような、方法があるとよろしいのかなと思います。この進め方でいくと、なかなか、それが増えていく見込みが厳しいのかなと考えますが、県としてのご意見あればよろしくお願ひいたします。

(県)

広め方の方法も含めて今後検討をしていきたいと思えます。

(田中オブザーバー)

来年度1年間の中でいろいろ検討しながら先に進められるように、今協議会長がおっしゃっていたように広く広められる方法と、あとは他の市町村でやっている他の事業とかではできないような、私たちではないとできないようなことを少し掘り下げて検討していきたいと考えています。

(3) その他

① 千葉県地域リハビリテーション協議会運営要領の改正について

事務局より資料6について説明し、資料6(案)のとおり了承されました。

会議全体として、以下のとおり意見がありました。

(金井協議会員)

高齢化が進んでいる千葉県ですので、地域リハビリテーションはこれからもますます必要となってくると思えますので、各施設に頑張ってくださいたいですし、ぜひパートナーをふやしてもらって、本当に包括ケアの方にもどんどん顔を出すような、グループになって欲しいと思えます。

(東葛北部地域リハビリテーション広域支援センター)

先ほど金井先生からおっしゃいましたような、高齢化が非常に急速に進んでいます。千葉県では、特に東葛北部は、さらに進んでいます。そういう中で、私どもは先ほど申しました、広域支援センターだけではなくて、高次機能障害支援拠点機関の指定も受けていますし、それから臨床に関しては、東葛北部の認知症疾患センターとしての指定も受けて、この東葛北部では 2 ヶ所を柏市の北柏リハビリテーション病院も、その指定を受けて、半年に 1 回、いろいろな協議会をやっていますが、その中で、高齢化が進んでですね。認知症の方、寝たきりの方が非常に急速に増えています。

特に東葛北部では、皆さんご存知のように、URの団地ですね。ここは昭和 30 年代、40 年代にでき上がった団地で、ほとんどエレベーターもない状態で、階段昇降ができなくなったら、間もなく寝たきりになるというような問題もあってですね。それに対してどうするか。それから、認知症も非常に増えてきていますから、それに対してどういうふうにするかということで、今その協議会の中でいろいろ議論をしています。

一つの案としては、私どもの松戸市は 15 ヶ所の地域包括支援センターが指定を受けております。松戸市人口 50 万の中で、私どものところの小金原地域包括支援センター内は人口約 3 万人ぐらいですけれども、その中の寝たきりの方なり、認知症の方へのいろいろな対策を市の方とも検討しています。

具体的には、階段昇降が出来ない方のために、階段昇降機を導入するとかですね。それから認知症に関してもやはり、出来るだけ初期の段階で見つけて対応していくようなことを、今取り組んでいます。

このあたりの情報をまた来年度もお伝えしていきたいと思っておりますけれども、これは私どものところだけではなくて、千葉県全体の問題としても、取り組む必要があるかなと思っておりますので、県の方でもよろしくお願ひします。